

お茶の水女大家政 柳沢隆子 ○高部啓子 八十川 義子

大森貴美子 堀又美奈子

目的 先に私どもは被服構成学の見地から20・21才男女の計測値15項目について度数分布の正規性を検討し、胸囲・体重・皮脂厚が歪んだ分布を示すこと等を観察した。今回は成長期の男女について計測値が成長に伴、どのような分布型を示すかを検討し、合わせて既製服サイズ設定のための基礎資料を得ることを目的とした。

方法 1966・67年に行なわれた工業技術院による既製服のサイズ設定を目的とした日本人の体格調査における計測原票を用いて17～20才男女各500例を抽出し資料とした。身長・前上腸骨棘高・膝高・袖丈・背丈・背肩幅・胸囲・胸囲・腰囲・頸付根囲・頭囲・足長・背部皮脂厚・上腕部皮脂厚・体重の15項目について歪度・尖度により、度数分布の正規性を検討した。

結果 1. 長径項目では男女とも殆んどの年令で度数分布は正規型を示す。
2. 周径項目では男女ともかなりの年令で度数分布は非正規型を示す。特に男子の胸囲ではほぼ全年令にわたり非正規型である。
3. 体重・皮脂厚では男女ともほぼ全年令にわたり度数分布は非正規型である。
4. 皮脂厚を除いた項目では分布の歪度は年間増加量が最大を示す年令期、すなわち思春期的成長の時期に劣偏型から優偏型に、その後思春期的成長の終り頃から再び劣偏型への移行傾向を示す。男女とも思春期的成長の最盛期においては、殆んどの項目で正規分布を示す。